ななつかの風

畜産技術センターニュース

令和3年5月11日　第31号

発行事務局
●広島県立総合技術研究所
畜産技術センター技術支援部
〒727-0023
庄原市七塚町 5584 番地
TEL　0824-74-0332
FAX　0824-74-1586

新年度スタート

４ 月から，畜産技術センターも新たな体制で令和３ 年度をスタートさせています。この春の出来事と併せて着任者をご紹介します。

人事異動

県庁の定期人事異動によって畜産技術センターでは，次長（事務担当）１名，飼養技術研究部１名，育種繁殖研究部１名が転入及び新規採用で着任しました。また，１ 名が研究部から総務部に所内異動しました。

【岩谷事務次長】

Q：どちらからの異動ですか？

A：林業技術センター（三次市）からです。

Q：畜産技術センターへの配属は何回目ですか？

A：油木の広島牛改良センター時代を含めると３回目です。２年ぶりの七塚です。

Q：抱負をお願いします。

A：家畜がいるため，年中無休で多くの職員が働く職場なので，人も家畜も快適に働き，過ごせる環境づくりに努めます。

【日高主任研究員】

Q：どちらからの異動ですか？

A：本庁畜産課からの異動です。

Q：畜産技術センターへの配属は何回目ですか？

A：２回目，３年ぶりです。

Q：変化を感じるところはありますか？

A：畜産課時代も何度もお邪魔していましたが，打ち合わせが主で牛たちとは疎遠だったので，また新鮮な気持ちで現場に出ています。

Q：担当業務は？

A：種雄牛造成，精子に関する研究です。

Q：抱負をお願いします。

A：若い研究員と多く対話し，課題に挑戦していけたらと思います。よろしくお願いします。

（左から岩谷，小林，日高）

【小林研究員】

Q：新規採用ですね？

A：畜産一般職で採用されました。

Q：学生時代に学んだことを教えてください。

A：大学は北海道に進学しました。実習で，豚を飼育して屠畜して食べたり，搾乳のバイトをしたり，研究で農家を訪れて現場を見たり経験したことで，生活を支える農業や畜産業の大切さを学びました。

Q：畜産技術センターの印象は？

A：採用前に訪れたことがあったのですが，ポプラ並木がきれいで，のどかないい所だなと思いました。歴史も古いとのことで，配属が決まった時はとても嬉しかったです。

Q：担当業務は？

A：乳用牛の飼養管理の研究です。

Q：抱負をお願いします。

A：まだわからないことばかりですが，しっかり勉強して，広島県の畜産を盛り上げていけるような研究をしたいです！

コロナ禍

当センターは牧場としては中規模（牛 100 頭前

後，羊８頭）ですが，飼養目的や試験など業務の特殊性などを考慮して，牛舎群を４グループに分けて職員を配置して年中無休で飼養管理しています。予断を許さない現状において，万が一，家畜管理を担当する職員の勤務が制限された場合を想定した非常時業務体制を検討しています。

通常は４つのグループが独立して作業を進めていますが，想定では必要最小限の業務を安全に遂行するための非常時作業動線も検討しています。この場合，平時に比べると，飼料給与時間がずれる（牛にとっては腹が減っても定時にエサがもらえない，大問題！），運動場に出る時間が短くなる（自由が制限され，ストレス増加！），職員による牛体手入れの頻度が少なくなる（異常発見のチャンスが減少）などのように，牛にとってのマイナス面が予測されます。これらを踏まえつつ，人にとっても牛にとっても安全第一で，常により良い方法を模索しています。

着実に普及進展中

①【ビタミンＡ簡易測定装置（Ａ-クイック）】

牛の健康管理ツールとして，一般的な方法よりも簡便かつ迅速に血中ビタミンＡ濃度を測定できる器具です。

令和元年７月の発売から２年近くが経過しましたが，現在も全国各地の公設試，普及指導機関，肥育牛牧場への導入が進んでいます。

②【ガラス化ダイレクト移植器具（ビトラン-７）】

平成31年２月の発売後，１年が経過した頃から，移植技術者（受精卵移植師，獣医師）の器具取り扱い技術の習熟が県内における課題でした。当センターでは農林水産局畜産課及び県内３カ所の畜産事務所と協力して，現場技術者の技術習熟を進めてきました。その甲斐あって，昨年度は受胎率が前年比22%アップとなっています。この技術は，県の畜産振興の柱である広島和牛増産を支える基幹技術の一つであり，引き続いてフォローアップを行っていきます。

さらに，県外でも６県で利用されるなど，普及が進みつつあります。当センターでは，メーカーがインターネット上で公開している動画マニュアルの改良充実にアドバイスするなどの技術支援を行っています。

収穫で始まる畜技の春

この冬は，１月中旬まで平年並みの冬でした。この寒さの影響もあって，近年に比べて春の収穫作業が遅くなっています。（牧草の収穫時期の目安は「出穂期」で，ライムギは穂の出る直前が作業適期，イタリアンライグラスは穂の出た後が作業適期です。）

写真は，１日目刈取→２日目予乾→３日目収納，と１区画ごとに３日間をかけて行う春の牧草収穫作業のうち，３日目の“ベーラー”と呼ぶ作業機械で“ロール”を作っている風景です。この直後に白いフィルムでラッピングしてサイレージ（長期保存できる発酵飼料）にします。牛たちの口に入るのは「乳酸発酵」が落ち着く約１カ月後です。

スター誕生

当センターの重要な業務の一つが和牛の種雄牛を作ることです。この春，歴代最高の成績をたたき出した２頭がデビューしました。この２頭は，当センターが得意としている体外受精卵技術によって誕生した兄弟牛で，より優秀な「花勝百合」は当センターで繋養し，劣らず期待大の「花勝美」は全国団体である家畜改良事業団にレンタル移籍します。

２頭は，母方のルーツが三次市，父方のルーツが庄原市，そして母牛は神石高原町生まれであり，広島県産和牛の増産計画を支える種雄牛として申し分ない血統で，活躍を期待しています。

Ａ-クイック　ビトラン-7　花勝百合

これらについては，当センターのほか関係事業者様のインターネットサイトで詳細をご覧いただくことができます。

状況が良い方向に変われば是非，当センターへお越しください。歴史と自然に触れながら，牛の科学をご紹介させていただきます。【NK】